

町の現状と課題めぐり白熱

7、8月「ひらないの語り場」に延べ60人



平内町と青森大学、青い森鉄道による若者ネットワークづくり事業は今年、2年目の取り組みがスタートしました。1月23日に初めて開催した「銘酒とスイーツのタベ」で生まれた熱気とつながりをベースに、事業名にうった「ネットワークづくり」をさらに強め、深めていく方針です。

町の現状と課題、可能性について自由に意見交換する企画「ひらないの語り場」が始まり、7月17日に第1回＝写真上＝を、8月11日に第2回を町役場で開催しました。

町内だけでなく、近隣の青森市や弘前市をはじめとする津軽地方、さらには県外からも参加者があり、幅広い年代の方々が「平内の未来」「今、できること」について熱く議論を交わしました。

参加学生の感想

◇武蔵拓人（経営学部3年）

「実際に平内町の町民や活動している企業、役所の方々と話し合いをしてみて真に平内の町民が求めている要素や抱えている課題が見えた。語り場は町民の声を聞き、意見交換をする場として現状最適だと私は感じた」

◇武田誉也（社会学部3年）

「今回で二回目となった語り場への参加ですが、第一回の語り場の倍以上の参加者となり、様々な視点からの貴重な意見を聞くことが出来、充実した1日となりました。様々な立場からの多数の意見を元に、これからの語り場や活動を頑張っていきたいと思います。私も微力ではありますが頑張ります」

若者ネットワークづくり 2年目の進展



「ホタテと脱・ホタテ」役場カフェを

初の「語り場」は特にテーマを設定せず、フリートーク形式で語り合いました。「イベントも施設も、新しいものをつくるよりも今あるものを生かしていければ」「海が近いなど、地元で『当たり前』になっていることをあらためて掘り起こしたい」「町の情報発信者を増やし発信力を高めていく」といった意見が出ました。

特に、ホタテをめぐる議論が白熱。「ホタテ収穫の体験記を書き、さらに宿泊してもらってーというプランはどうか」「漁協同士のホタテの食べ比べをイベント化し、味の違いを感じてもらおう」といったアイデアが出る一方で、「むしろ、ホタテに頼らない『脱・ホタテ』の視点も重要」と新たな視点を投じる声も上がりました。

このほか、「町民が集い、憩える場所がない。『役場カフェ』がほしい」という意見が注目を集めました。



第1回ひらないの語り場 7月17日



「居場所・立ち寄り所が必要」



第2回の「語り場」は、1月の「銘酒とスイーツのタベ」にブースを出展した、東京都の企画会社「ルミナーージュ」の代表・小原葉月さん＝写真右下＝が町の活性化策について提案し、それを元に意見交換を繰り返しました。「居場所」「立ち寄り所」といった言葉が軸になりました。

「平内町は津軽と南部を結ぶルート上にあり、交通量が多いのに、立ち寄れる場所がない。知り合いに聞かれて、コンビニエンスストアを勧めたことがある」「食べてくつろげる場所がほしい」などの声が上がりました。

また「地元の景観を見直そう」「観光地だけではなくオススメのお店など『わがまちマップ』を作りたい」という意見も出ました。

終了後も「小さなことでもいいから、出た意見を着実に実行することが肝心」という趣旨の投稿がネットに相次ぎました。

第2回ひらないの語り場 8月11日

◇小原葉月さんの提案（抜粋）

▼ホタテに合うお酒や山菜の開拓▼ムール貝に似た「しゅうり」の製品化▼地名入りの地酒・地ビールの開発▼ベビーホタテの活用▼若い女性をターゲットにした戦略の必要性▼青い森鉄道「小湊の旅」パッケージツアーの開発▼「美・食・癒・動・学」をキーワードにしたプランの検討▼セロリやササゲ、タラの芽などの「町おこし山菜」化▼ソーシャルメディアによる「ホタテ成長日記」・ブログ作成

●編集・発行
青森大学地域貢献センター
●連絡先
青森市幸畑2丁目3の1
●電話
017(738)2001



Facebook「青森のおへそから～私の平内、あなたの平内」のページと「お月見」イベントはこちら！（カラー版をネットでご覧いただけます）



お月見



青森のおへそから

あそびの平内 私の平内



「藩境塚」を調査する青森大学生ら



「大学生観光まちづくりコンテスト」応募

青森大学の学生チームがこの夏、平内町を舞台に、観光施策とまちづくりを融合させたプランの開発に取り組みました。青森県が特別協賛し、JTB東北が運営に当たる「大学生観光まちづくりコンテスト2015」青森ステージに応募するため、町役場の協力を得て現地調査を行ったり、「ひらな이의語り場」に参加したりして、平内町が秘める可能性を検討しました。9月14日(月)に青森市で開かれる最終審査会の結果に注目です。

同コンテストは全国で青森、山梨、大阪、大分など5ステージが設定され、各地の大学から計184チームがエントリー。青森ステージには北海道・東北・関東の17校が名を連ね、青森大学は5チームがエントリーしました。

平内町をフィールドにしたのは、経営学部3年の武蔵拓人君ら5人のチームです。名産のホタテ以外の魅力ある食材としてトゲクリガニや「しうり」に注目。また、太平洋戦争の終結直後、「第二青函連絡船」用に造られたものの使用されなかった岸壁など、あまり知られていない地元の歴史を素材に検討しました。

◇連携のあしあと

- 2014年3月13日 包括的連携協定を締結
- 2014年6月 平内町の活性化策を探るため、青森大学の学生団体「ハッピー・フィールド」発足
- 2014年8～9月 「ハッピー・フィールド」が平内町を調査。併せて「ふるさと自慢わがまちCM大賞」応募作品制作
- 2014年11月 調査に基づき「銘酒とスイーツのタベ」の開催決定。町と町民、大学、青い森鉄道の実行委が発足
- 2014年12月24日 連携事業の一環としてニューズレター創刊
- 2015年1月23日 「銘酒とスイーツのタベ」に90人参加
- 2015年7月17日 第1回「ひらな이의語り場」開催。約20人出席
- 2015年8月11日 第2回「ひらな이의語り場」開催。約40人出席
- 2015年9月 27日に「ひらな이의お月見」予定



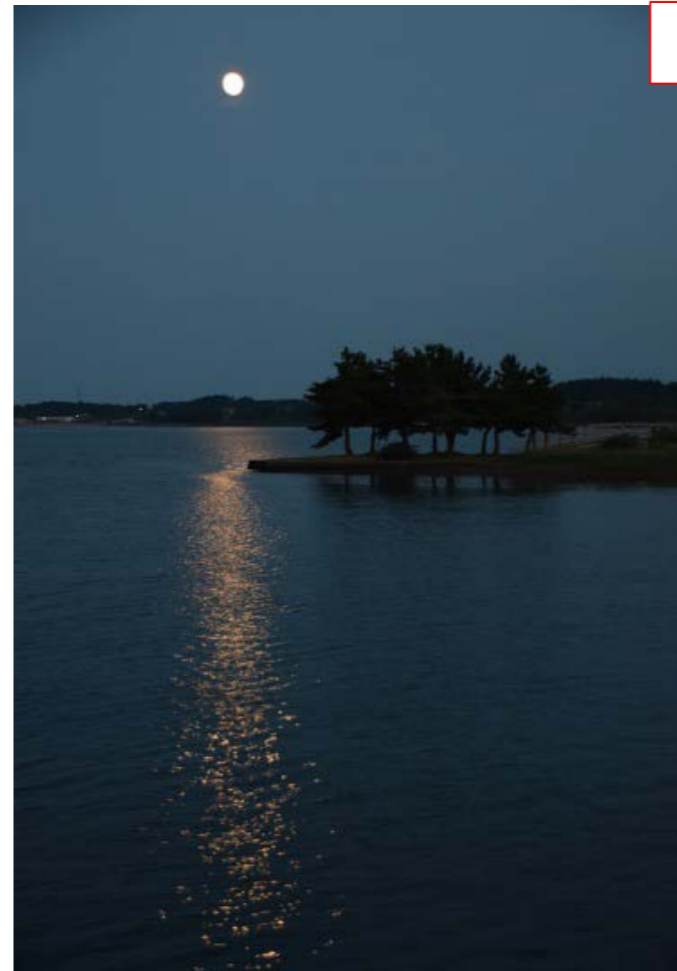
「第二青函連絡船」の岸壁跡＝浅所

青森大チームが町内調査

地元の魅力 見直して語りませんか？

浅所海岸を「中秋の名月」の名所に！

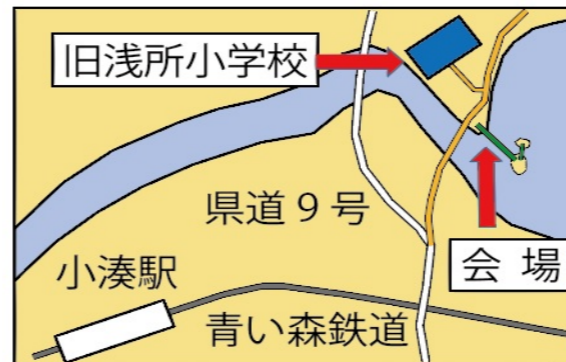
9月27日(日)「お月見」開催



- ◇「ひらな이의お月見—浅所を月見の名所に！」(第3回「ひらな이의語り場」併催)
- 日時：9月27日(日)午後5時～午後7時
- 場所：浅所海岸・松島渡橋付近 (受付・集合・駐車場は旧浅所小学校)
- 内容：①日没・月の出の観察と撮影
②「月」「平内町の景観」をめぐる語らい
③月にちなんだ短歌・俳句・川柳づくり
④星空の解説
⑤第3回ひらな이의語り場 「わがまちマップ」作成(会場・旧浅所小)
(天候に応じて内容を変更することがあります)
- ※問い合わせ先：平内町役場 企画政策課 電話017-755-2111

「平内プロジェクト」の次回イベントとして、浅所海岸で「ひらな이의お月見」を開催します。日時は中秋の名月・9月27日(日)の午後5時から午後7時です。日没を見届け、昇る月を眺めながら、地元の「お勧めの絶景ポイント」「月と平内町」を語り合ったり、俳句や短歌を作ったりしてみませんか？ 星空教室も開きます。

- ★「月」「お月見」に関する思い出の品やエピソード、双眼鏡などをお持ち寄り下さい！
- ★第3回「ひらな이의語り場」も併催し、「語り場」で提案があった「わがまちマップ」を実際に作成します。
- ★「お月見」の受付・集合場所と「語り場」会場、駐車場は旧浅所小学校(平内町福館雷電林1-50)です。「お月見」は浅所海岸・松島渡橋付近で行いますので、直接おいでくださっても構いません(開催時間帯にかかわらず、催しには自由にご参加・ご退出下さい)。
- ★「わがまちマップ」作成のため、絶景スポットや思い出の場所の画像・プリント写真、ストーリーをお持ち寄り下さるか、事前にFacebookページ「青森のおへそから」、「ひらな이의お月見」イベントページにご投稿を。
- ★曇天・強風・雨天の場合は、旧浅所小体育館で「わがまちマップ」作成を午後5時から行います。



会場略図

青森大学祭、10月10・11日開催！

青森大学最大のイベント、青森大学祭が10月10日(土)、11日(日)の両日、青森市幸畑の大学キャンパスで開かれます。皆さまもぜひ、おいで下さい！
今年のテーマは「切磋琢磨 ～WE'LL DO OUR BEST～」。平内町の皆さまの協力を得て作成した「大学生観光まちづくりコンテスト」青森ステージの応募作品をポスター発表するほか、青森大学が各地で実施している地域貢献活動についても、広くご紹介す

る予定です。
幸畑団地地区まちづくり協議会との連携による、団地の皆さまの写真・絵画・工芸作品展「幸畑文化祭」や、認知症の方々が製作した文芸・工芸作品を展示する「オレンジ文化祭」も企画されています。
平内町と青森大学の連携事業として、未来創造ひらなない塾がホタテ貝焼きブースを出店します。初めて参加した昨年の大学祭は、大好評を博しました。